

平成 26 年度文化交流センター運営協議会定例会
会 議 結 果

日時 平成 27 年 3 月 27 日 (金)

14:00～15:10

場所 文化交流センター講習室

出席委員 高橋会長、今田副会長、相馬委員、橋場委員、林委員
深瀬委員、山内秀委員、横濱委員、脇田委員 計 9 名

欠席委員 山内一徳委員 1 名

事務局 教育部 澤口部長
生涯学習課 瀬能課長、野水主幹、下館嘱託員

指定管理者 NPO 法人ワーカーズユープ 佐々木北海道事業本部事務局長
文化交流センター 石丸館長、三石副館長

-
- 1 開 会 (進行) 野水主幹
 - 2 教育部長挨拶 澤口部長
 - 3 委員自己紹介
 - 4 事務局担当職員・指定管理者自己紹介
 - 5 会長・副会長選出
～会長：高橋委員、副会長：今田委員
 - 6 議 事 (議事進行) 高橋会長
 - (1) 平成 26 年度 文化交流センター事業報告及び利用状況報告
～資料に基づき石丸館長から報告
 - (2) 平成 27 年度 文化交流センター事業計画
～資料に基づき石丸館長から説明
 - (3) その他
 - 7 閉 会

【 議 事 】

議長：初めに（１）平成 26 年度文化交流センター事業報告及び利用状況について、事務局からご説明をお願いします。

館長：平成 26 年度文化交流センター事業報告及び利用状況を資料に基づき説明

（内容概略）学習活動の推進について、市民カレッジでは健康ウォーキング、水彩画、絵本セラピーの新規講座を開設した。ブルームボール世界大会の参加者が書道、茶道、生け花の体験をし、市内の高校生ボランティアが海外の方と交流した。

子ども体験教室は前年度並みの実施をした。また、自主事業では青年後見制度の啓発・相談会や冬期ラジオ体操会を開催した。独自事業は前年度並みの実施を行った。長生大学の自主的活動支援、合同大学祭、高齢者主張発表会及びサークルまつりを実施した。

利用者アンケート調査結果の提示と施設利用状況（使用回数・稼働率・延べ利用人数）について提示した。

議長：ただいまの館長さんからの報告に対しまして、ご質問をお受けしたいと思います。特にございませんか。後ほど気がついたところがあれば、その他のところでも構いませんのでご質問ください。次に進めさせていただきたいと思います。

次に議事の（２）平成 27 年度文化交流センター事業計画について、事務局からご説明をお願いします。

館長：平成 27 年度文化交流センター事業計画を資料に基づき説明

（内容概略）学習活動の推進では市民カレッジ、子ども体験教室、臨時講座は今年度並みの予定で、自主企画事業は市民の要望や地域課題に応じた学習機会の提供や内容の充実を図り、施設の利用促進に努める。

高齢者学習の推進は高齢者の社会参加や生涯学習機会の充実に努める。長生大学の運営については学生の自主性を尊重し、より活性化を図る。新入学生募集について北長生大学は定員になったが、他の募集の PR に努める。

芸術文化の推進は各種講座、自主事業を通して芸術文化に触れてもらう。市民が地域との創造を通して、人づくり・まちづくり事業を推進する。

市民自主学習活動の推進はサークル連盟との連携を強め、各サークルの活動推進を図り、他の学習団体との連携による社会参加の促進に努める。

情報の収集・提供は関係機関とのネットワークで得られた情報を広く市民に提供し、生涯学習の一環として社会教育活動支援に取り組んでいく。

議長：ただいま説明ありました平成 27 年度文化交流センター事業計画に対しまして、ご質問、ご意見等をお受けしたいと思います。

委員：長生大学の活動に関してですが、コーラスの練習で音楽室を利用しています。各部屋にある備品でピアノなど大きなものは分かるが、小さなデッキなどの短時間利用の使用料は免除にならないか。電源を入れると 500 円かかるということと言われたことがある。民間とは違うのかなと思う人もいる。めったには使わないが、市の合唱発表会に参加する時と文化祭の時に CD をちょっと聴いたりするのですが、何でもお金というとお願ひしにくいので、全部でわずか 8 分位なのでもう少し柔軟な対応をしていただけないでしょうか。

議長：部屋に備え付けのデッキの使用料金について事務局はいかがですか。

館長：少し検討させてください。MD とかを使われる方もおりますが、通常は同じものなので CD ラジカセを購入するようなことを検討させていただきます。

委員：60 人位で聴くのですが、部屋が広いのに性能が良くないため、大きなものを持ち込みたいが、それも大変なので検討をお願いしたいと思います。

議長：事務局は検討をお願いします。

委員：基本的には備品を借りているということですね。備品を借りるのに500円払うというのは常々我々サークルが利用するときに対応するやり方ですね。

むしろそれは考慮ではなく、払ったらいい、その中でこんな悪いものではなく、もっと良いものを入れろと云うのがスジではないかと思う。音が悪くて聴きにくいのを500円払って聴くのは備品としての役割を果たさないと、それであればきちんとしたものを置いて備品としてそれを借りるか、または持ち込むとかすれば良いのではないか。

備品として登録されたものであるかどうかを確認されたのであれば、それは決められたとおりにするべきだと思います。

備品に相当する音が出ないのであれば、替えてもらったら良いのではないか。それは言う権利があるという事を申し上げている。備品として管理しているものをタダということにはならない。どんな事に使おうとも払わなければならない。

これが備品としての登録もなく、たまたまあったものを使っているということで、備品としての登録もないというのであれば何らかの考慮はあってもいいかもしれない。便宜上貸しているということなのか、事務局から答えてもらったほうが良いと思います。

議長：整理します。今話に出てきたカセットデッキとかの使用料金はどうなっておりますか。

館長：音楽練習室等には音響ワゴンが設置してあります。こちらの部屋にもマイクとかの音響ワゴンがあります。これは備品としての使用料をいただいております。今回、壊れたということで4～5万円のCDラジカセを購入して取替えております。古くなってくると故障したりしますので、そのようなところに費用がかかるので、備品代の中から捻出をしているというのが現状です。

議長：CDラジカセを借りるのも使用料は決まっておりますか。

館長：小さいラジカセは無料で貸し出してしております。大きい設備は備品になっているので、使用料という形でいただいております。ラジカセ程度であれば無料で貸し出します。台数が不足するのであれば、購入ということで先ほどお答えした次第です。

議長：整理すると、きちんとした備品を借りるときに考慮してもらえないかということでよろしいですか。

委員：言葉は悪いが市と民間の違いが出ているのかなと感じる方もたくさんいるということです。ここの倉庫にあるCDラジカセはあまり音も出ないし、性能が良くないので、良い物があつたら持ち込んで聴こうということでやっている。何か機会があつたら話してくれないかという要望があがっている。考えていただければ助かります。

議長：少し前に戻りますが、内容がだんだん分かってきたと思います。それらはどの範囲まで考えていただくという範囲になるのかということですが、使用料が決まっているものは当然払って使用する、それで性能が良くない物であればもっと良い物にしてもらいたいという要望は出すべきではないかという発言がありました。これを含めて事務局の考え方を願います。

館長：備品に関しては、長生大学だからといって料金を取らないという訳にはいかないのですが、その辺はご了承いただきたいと思います。ただ、先程申しましたようにCDラジカセは台数が少なく、安価なものしかないものですから、今後より良い物を検討していきたいと思います。

議長：そのほかにございますか。

委員：配布資料の表の見方ですが、5、6ページ目に稼働率ということでパーセンテージが載っておりますが、例えば5ページ目の多目的ホールの午前、午後とありまして、分からないのが下の方に増減とありますが、多分前の年との比較ということだと思いますが、マイナスがついていて稼働率が1.9%となっておりますが、この意味を教えてくださいたいと思います。

議長：事務局からお願いします。

館長：増減について、25年度は一年間通しての数字です。26年度は27年2月までの数字になっておりまして、3月の一ヶ月分が入っておりませんので、それを考慮すると前年よりもアップしているということです。増減の数字は26年から25年を単純に引いただけです。

委員：稼働率もパーセンテージの差し引きということですね。

館長：そうです。

議長：稼働率は今年度1.9%増えたということですね。24年度ではなく、25年度と26年度の比較ということによろしいですね。

委員：回数が増減にマイナスがついているのに、稼働率がプラスになるのが分からなくて聞いてみたのですが、その意味が分かればと質問しました。

館長：多目的ホールのサークルであれば、52というのは午前に52回の利用があったということ、4月から2月末までの数字で3月分はこれに足さるようになります。2月までの平均の稼働率が多目的ホールに関しては午前が52.8%で、26年度計が41.7%で昨年度よりは1.9%上昇しているということです。

委員：稼働率というのはどういうものなのか。何と何から出る数値なのでしょう。

館長：貸室の利用回数の割合です。日数に対してですが、365日のうち休館日が6日間あり、これを引いた（サークルまつり4日も）日数に対し、52回の利用で午前が52.8%ということで、その年間を通しての稼働率になります。

館長：午前の52.8%というのは半分以上使われているということです。

副館長：補足の説明をさせていただきます。午前、午後、サークル、一般、主催の欄の数字は館長から説明したとおりですが、全体の使える日数は何日と下に記載してありますが、これで割った数値になります。26年度は回数が3月分入っておりませんので、25年度より若干少なくなっているところもあります。これに3月分が加わりますと、割る数字も変わりますので若干変わってくるものと思います。

部長：26年度は2月分までの稼働率ということか。回数は実数で2月分までなので25年度と比べると1ヶ月少ないのでマイナスになっているが、稼働率は2月までの率なのでプラスになっているということですね。

委員：もう少し分かり易く書いて欲しいです。説明も早いので、なるべく丁寧をお願いしたいと思います。

議長：要望ですので、検討してください。そのほかに不明な点などありますか。

委員：5ページ、6ページで各部屋のどこが使っているか、サークル、一般は分かるのですが、主催というのはどちらの主催ということですか。

館長：アイビープラザが主催しているということです。

議長：よろしいですか。ほかにございますか。

委員：昨年、この場でコピーの料金のことが出ておりましたが、早速安くしていただいて皆さん大変喜んでおります。利用させていただいております。ありがとうございます。

議長：昨年、コピー代が高いということで要望がありました。早速検討いただいて対応していただき、利用者が大変喜んでいるという発言でした。ほかにございますか。

委員：サークル連盟についてよろしいですか。先ほど、団体が91あるが、加盟団体が少なくなっているという話がありました。各サークルとも高齢化で解散するところもあると聞いておりますが、連盟も多くの加盟を望んでいると思いますが、何か手立てというか積極的な働きかけなどは考えておりますか。

議長：サークルの発展なくしてアイビープラザの発展はないという、一番大きな位置付けにサークル連盟はあるということは皆さん共通していることと思いますが、そのなかで心配されての発言と思います。連盟の方からお願いできますか。

委員：皆さん委員になられてご存知かと思いますが、公民館時代というか、ここがどのような位置付けでサークルが発展してきたかということです。

もともと何もない時代から始まって、何をやるかという時に指導者が何人かいました。例えばガリ版のプロがそこにいました、英語やエスペラントを話す人、俳句を作る人、その講座をずっと何十年も今まで続けてきています。その講座を開いて何回かで終わるといふ時に、せっかく学んだのだから、その講座を引き継いでサークルとし活動しましょうということでサークルとして申請するんです。そうしてアイビーでは登録をして、どんどん大きくなって、以前は120くらいありまして、今は90くらいに減りましたが、こういう講座のやり方ですとやってきたんです。

講座はやっているのですが、最近はサークルとしてやりたいというのが少なくなってきている。このあいだも固形石鹸を彫ってきれいに加工する先生と話したのですが、確かにやりたい人はいるのだけれど、それをあえて講座が終わったからといってサークルとして残すということがなかなか難しい。サークルに加入しなくても、ここを使っている人が結構いて、その人達は何故サークルに入らないのか。入るメリットがないというのもある。一つは会費を払わなければならない。

もともとの発想が我々と違うなと思いました。別に会費が高いから入らないのではなく、連盟というのはそもそも情報交換をサークル同士が年に一回はおまつりを開いて、他の施設ではお酒を飲む事は認められていないのですが、ここでは認められていて、年一回の交流会で親睦を深めてやりましょうということで説得するのですが、連盟に所属することに踏み切らない。

多分アイビーでも押さえていると思う。我々もお祭りをやったり、ここで総会を開きますが、90サークル集まったことが未だかつてない。昔はたくさん集まってきました。では何故集まって議論したかということ、部屋が少ないなかで部屋を取るために皆が必ず来ている。今はこんなに部屋がたくさんあって、調整をしなくても困らない状態で非常にありがたい話です。

我々の発想と違うのはサークル同士の交流と向上を目指すというのが本来です。確かに委員の危惧するところは我々も危惧しているところです。

先日、合唱の先生からもサークルまつりに出させて貰っているけれど、本当にいいんですかというのがありました。交流の場所ということを考えれば、長生大学がここを使っているのは歴史のあることなので、サークルとしてではなくても皆に聴いて貰うというのは、アイビーのお祭りに相応しいのではないかといいました。それですっきりしましたといっておりました。もともとはそういう所だと思っている。

ただ、サークルをこのまま90からどんどん減って半分以下になるということは我々も危惧しなければならないと思います。アイビーの方々もいろいろと骨を折ってくれて、〇〇会というのが一つ脱退しましたが、お蔭様で4月からまた一つ増えましたので、91は維持できたということになります。

報告や事業計画を見ているとやはり講座を開いていただいて、サークルが増えていただければ、中身のある講座といえは怒られますが、魅力のある講座をやれば感動してサークルになる。その時にどうでしょうかというようなことを事務局としても努力してもらえれば大変ありがたいなと思っております。実態としてはそういうところです。

議長：そのほかにございますか。なければ、これで（２）についてはこれで終了させていただきます。

次に（３）その他としまして事務局から何かありましたら、お願いします。

事務局：ございません。

議長：委員の側から、先ほど質問が漏れたなど、その他の中でご発言ございますでしょうか。

委員：先ほども委員からご意見をいただいたのですが、サークルを盛り立てる方法を我々も考えてきているのですが、委員の皆さんで何か「こういう事をしたらいいのでは」ということ。そのために紙面も一新して皆さんに使ってもらおうと思っていたのですが。

交流会にもひとサークル一人が来れば9人集まるんです。ところが17～18人くらいしか来ない。交流の場所ということを考えながらやろうとしているのですが、私が会長になって一期半で、前会長から急遽引き継ぎましたが、まだまだ流れを引き戻せるところまで行っていないと思います。全面に壁のようなものがあると感じられるのであれば、何かお話いただければと思います。

議長：せっかく委員の方々に集まっていたいでいるので、サークルの運営についての関連として、盛り立てていくために良い意見があれば、この場でお伺いしたいという発言です。

部長：現在、生涯学習課で文化芸術推進計画を新たに作って動いております。市民アンケート結果を見ますと、先ほどもお話したとおり、高齢者の参加が多いんです。それと女性の参加が多くなっております。今後こういう傾向を無視する訳にはいかないと思うんです。

逆なことをいえば、若い人達をどうやって引っ張り込むかということも、推進計画の中には大きなものとして入れていかなければならないと思います。裾野が広い、いろいろな分野があります。

長生大学などもそうですが、三味線持って民謡やってという時代だったのが、我々もそうだったんですが、小学校のときにエレキギターを持ち始めてバンド作ったお兄ちゃん達が今はもう高齢者なんです。シルバー世代なんです。だから長生大学にエレキバンドが出てきてもおかしくない時代になってきている。ただ、中身も時代と共にどんどん変わってくるのではないかと思います。そういったことを全部ひっくるめた形で文化芸術というところを見直していかなければならないと考えています。

では何をするのか。どういうきっかけをもってくるのかということをもっとこういう場において意見をいただいて、私共の計画の参考にしたいというのが正直なところです。非常にこれからが難しいのかな、今までどおりには進まないのかなと思います。

利用される方の意識の変わり目というのもあります。先ほどありましたように、連盟に入るメリットとかを特に最近の人は言われますが、そういうところのつながりも出てくると思いますので、市民意識が時代と共に変わっているという背景はあると思います。

それらも含めていろいろな分野の方から委員として来ていただいておりますので、いろいろなお話をしていただければと思っております。

議長：ありがとうございます。次の方どうぞ。

委員：取材などでコミセンなどへ行くと、そこを利用する年代というのは30代、40代という方が多くて、こちらアイビープラザは60代以上で、今では70代、80代位が多くて、ここの若い人というのは70歳位と思ったので、アイビープラザの中の若年層である60代をもっと引き込もうではないかと思えます。

そこで先ほど話のあったエレキ世代が例えば苦小牧軽音楽とかに引き込もうと思ったから、もうここは60代ではないかと思ったので、団塊の世代くらいの興味を引くような講座とか講習会、お金に関する講座はいいと思うのですが、例えば老後の生活設計に関するものなど、60代をターゲットのものをもう少し増やしたらどうかと思えます。

議長：ありがとうございます。文化交流センターは60代が若年層なんですね。

指定：ちょっとした違いですが、例えば、「若い新メンバー求む、60歳」みたいな。広報活動とか。若い方大歓迎、60代、いらっしゃいというようなPRを全館あげてやってみるのも、おもしろいかもしれないですね。

議長：私の周りにも、定年退職をしてこれからどうしようかというのが特に男性です。女性は割といろいろなことをやるんですが、何をしたらいいか分からないという60代の男性はいるんです。それも今、良いヒントをいただきました。次の方どうぞ。

委員：今、60代が比較的若いのではないかという話がありましたが、長生大学は60歳以上が入学資格の最低条件で学歴は問わないのですが、受付けると女性が圧倒的に多いのです。

男性は4分の1もいないのではないかと。途中でやめてもいいので、とにかく入ってもらっている。ほかのところですが、ハーモニカのバンドを作って施設を慰問しているところもあります。同世代の方がいっぱいおりますから、話を聴いてあげることが本当に喜ばれており、すばらしい事だと思います。そのような形で何かをサークルとして発展させて呼び込めば、もう少し増えてくるのではないかと感じます。
どういうことで関心を持っていただくかという方法ですね。

議長：ありがとうございます。他にアイディア的なもので何かありますでしょうか。

委員：終活セミナーなどはどうでしょうか。

委員：町内会役員会でもどんな事が喜ばれるのかというと、今まさにそれなんです。

葬儀社の方を講師に招いて1回やりましたが、まだやって欲しいという希望がありました。これは高齢者だけでなく、若い方も聴いて、お墓の問題とか、法事のやり方とか、分からないまま過ごしているということが多く、遺言の書き方とか、何かをノートに残すという事も次にやっていただけないかという事もありました。そういうものに関心があるのは間違いではないと思います。

指定：それを定期的に集まれるようにする。美容室の方が言うておりましたが、毎年ヘアメイクをしてもらって遺影の写真を撮るという方がいるということです。そういうところで皆さんで毎年集まりましょうということであれば、また逢えたねということで交流を継続できる場になるかなとも思っております。

昨年3月までおりました札幌のコミセンで60歳以上の男性を対象にした、男の生き方セミナーというものをやりました。参加者は7～8人で10回形式で料理や終活をやり、最終的にはサークルになって月1回集まろうということになり、情報交換とか新たな人が入ったりして、一つの居場所という形になったというケースもありました。

それぞれ周りの環境により関心のある部分にも違いがあるので、いろいろな内容をシリーズにして、関心のあったのは医療・健康関係の講座はたくさんの方で50代、60代の方が中心で活動しておりました。

昨年、苫小牧のコミセン4館でも講座からサークルになっているケースも増えてきておりますが、反面高齢化でなくなってくるサークルもあります。私たちの運営の一つとして、世代交代をどう上手く講座等を柱にしながら、引き続き続けてもらえるような体制を作るかというのが、今後私たちに委ねられているのかと感じたところです。

議長：ありがとうございます。次の方どうぞ。

委員：町内会活動で一番流行っているのがふれあいサロンで、とにかく月に1回集まって麻雀やってもいいし、お茶を飲んで話してもいいというのがある。60歳以上が多い町ですから、4月からやろうという事になっております。そういうサークルというのは今はないですね。

委員：アイビーからの情報ですと、麻雀の講座をやっていてサークルに加盟したいという意思表示があったという感じですが、もう少しですね。

議長：ありがとうございました。(3)その他のところで活発にご発言いただきありがとうございます。他になければ、これで議事を終了させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

委員：異議なし。

議長：以上をもちまして議事を終了させていただきます。皆様方のご協力、ありがとうございました。

事務局：会長、委員の皆さま、ありがとうございました。貴重なご意見をいただきまして、事務局並びに指定管理者にとって有意義な会議となりました。本施設がより良くなるよう皆さまのご協力をお願いして閉会とします。